

## 【表付き】4月から新型コロナ治療薬の自己負担 21 万円の恐れも…受診の比重はむしろインフルが上

3/8 日刊ゲンダイ

新型コロナ治療に使われる治療薬への助成が3月末で終了し、4月からは負担割合に応じた全金額を自己負担することになる。コロナ治療費の負担急増で治療や受診を拒否する人も増えるとみられる。さて、どう対応すればいいか。

新型コロナの治療にかかる費用は当初、検査費用や治療費を含めて全額公費でカバーされた。公費による助成は少しずつ縮小され、昨年10月からは原則、治療薬への助成のみに。それでもいまのところ薬代は1割負担で3000円、3割負担で9000円に抑えられているが、4月からは治療を受けた人が1~3割に応じた負担額を丸ごと支払うことになる。

4月から新型コロナの治療でかかった費用も、ほかの病気と同じように保険制度にのって負担するのは通常の仕組みに戻るだけ。ある意味、当然のことだが、新型コロナで使用される薬の正規料金である薬価を知ると、「えっ、ウソ！」と目が点になる人が少なくないだろう。

### ■国産初ゾコーバは1治療5万円超

新型コロナで通常承認された薬のうち、軽症から使えるのは4種類。たとえば国産初の新型コロナ治療薬として2年前に軽症・中等症向けとして緊急承認された「ゾコーバ」は、治療費への助成を発表したニュースと前後する形で今月5日付で厚労省から通常承認を受けた。用法用量を守って服用すると、回復までの期間が1日短くなるのが効能だ。

気になる薬代は1錠7407.4円。最初の日は3錠、2日目から5日目まで1錠ずつで計7錠飲むと合計5万1851円。3割負担だと1万5555円に上る。これまで9000円で済んでいた3割負担の薬代は、何と6000円超もハネ上がるのだ。

会計で支払うのはもちろん薬代だけでない。診療料や処方料、調剤料、検査費なども上乘せされる。そうしたものをすべて合算すると2万円近くになるのだ。受けた治療の料金をきちんと支払うのは当たり前とはいえ、この高額ぶりには驚かされる。

「昨年10月に新型コロナの薬代が3割負担で9000円になってから、医療費負担の増加を嫌った一部の患者さんには、時々、薬の処方を拒否されることがあります。これからコロナ治療薬の高さがより認識されると、処方を拒否する方が増える可能性はあるかもしれません」

こう言うのは、「米山医院」院長の米山公啓氏だ。糖尿病や高血圧などの生活習慣病の人が、薬代が安いジェネリックのない新薬を処方されると、その1カ月分が2万円前後になることは珍しくない。コロナの薬はわずか5日分でそれに匹敵する金額だが、ほかの薬はもっと高い。

「ラゲブリオ」は持病があるハイリスクの人が軽症から中等症1の場合に使用できる薬で、入院や死亡を30~50%減らすことができる。1カプセル2357.8円で、1回4カプセル。1日2回、5日間服用するのが基本だ。そうすると、1日分は1万8862円、5日分だと9万4312円、3割負担で2万8293円にハネ上がる。

同じくハイリスクな人の軽症から中等症1に使用できる「パキロビッド」は用量が2つあり、高い方だと1治療=5日分で9万9027円。3割負担で2万9708円だ。ラゲブリオやパキロビッドでは、前述の診療料などを含めると支払金額は3万円を超える。シャレにな

らないだろう。

ダメ押しが「ベクルリー」だ。対象はハイリスクな人の軽症から中等症1までで、注射に使用する薬剤は何と1瓶6万1997円。基本的な投与は初日2瓶、2日目から5日目まで1瓶、合計6瓶で37万1982円ナリ。3割負担で11万1594円とベラボーだ。この薬、肺炎を起こしていると最大10日間注射する。そうすると、68万1967円、3割負担は20万円超だ。

平均株価4万円超えの波に乗るウハウハ株長者はともかく、住宅ローンや教育費などにあせりながら生活する現役世代や年金でほそぼそと暮らす高齢者らは4月からの新型コロナ治療費がグンと重くなることを覚悟しなければならない。

### ■米CDCは重症者現象で5日間隔離撤廃

幸い、昨年末から増えていた新型コロナの感染者数はピークを打ち、減少に転じていて、厚労省に集まる報告数が全国で3万9000人ほどとなっている。助成が切れる4月からは春の暖かさも相まってさらに減るだろうが、対策は頭に入れておくべきだろう。米山氏が続ける。

「現時点での新型コロナは、かなり軽くなっていて、健康な方ならほとんど風邪と同じです。症状は熱と咳で済む方がほとんどで、解熱剤と鎮咳薬で乗り越えられます。米疾病対策センター（CDC）が感染者を5日間隔離する方針を撤廃し、症状が改善すれば復帰できるようにしたのも、そんなウイルスの変化が大きいと思います」

米CDCは、重症化する感染者が減少したことや隔離期間を改定する他国のケースを参考にしたという。復帰の条件が、少なくとも24時間にわたって解熱剤を使わなくても発熱せず、症状が改善する方向にあることで、米山氏が指摘するように解熱剤でしのげるケースが珍しくなく、「当面、高額な薬が必要になるのは重症化リスクが高い人が感染したケースがほとんどでしょう」というから一安心だが、心配な点もあるそうだ。米山氏が言う。

「いまは、新型コロナよりインフルエンザの方が症状が重いことが多く、むしろインフルエンザ治療が重要です。ただし発熱した場合、新型コロナもインフルエンザも重症化リスクはゼロではないし、症状からいずれかを判断することはできないので、不安なら新型コロナとインフルエンザを同時に調べる検査を受診するのが無難。それでインフルエンザと判明したら、インフルエンザの薬を処方してもらうのが肝心です。インフルエンザの薬は高くありませんから」

前述の通り、健康な人は、風邪か新型コロナと判明したら一般の解熱剤や鎮咳薬を処方してもらえばいい。高額な新型コロナ治療薬は重症化の兆しが見られてからの使用でも遅くないという。

ちなみにインフルエンザの薬代は、たとえば古くからある「タミフル」は5日分で2302円で、そのジェネリックは同1144円。重症化を予防する最新の「ラピアクタ」でも6331円で済む。3割負担は、それぞれ690円、343円、1899円だ。こちらもほかに診療料や検査代などがかかるが、不安なく受診できる金額だ。

厚労省の新型コロナ治療薬への助成打ち止めに驚いた人は今後、インフルエンザの治療優先で、新型コロナは“様子見”の解熱剤服用のスタンスでいけば、体調がおかしくなったときも心配せずに済むだろう。



先発薬タミフルで1錠230円 (c) 共同通信社 (日刊ゲンダイ)



**新型コロナウイルスの薬代**

商品名	基本治療の費用・3割負担額	1単位分の薬価	服用方法
ペクルリー	57万1952円・11万1584円	1錠6万1997円	初日に2錠、2日目から1錠ずつ注射
パキロビッド	9万9027円・2万9708円	1シート1日分で1万9805.5円	1日2錠、5日間服用
ラゲブリオ	9万4912円・2万8293円	1カプセル2357.8円	1日4カプセル、1日2回ずつ5日間服用
ソコーバ	5万1851円・1万5555円	1錠7407.4円	初日に3錠、2日目から5日目まで1錠ずつ

※ペクルリーは肺炎発症の場合、最大10日間注射する。その場合の薬代は60万6762円

**インフルエンザを治療するときの薬代**

タミフル (先発薬)	2302円・690円	1錠2302円	1回1錠、1日2回を5日間服用
タミフル (後発薬)	1144円・343円	1錠1144円	同上
レシガザ	2554円・766円	1ブシスター1277円	1回2ブシスター、1日2回を5日間服用
ラピアック	5331円・1599円	1錠5331円	1錠300 <sup>mg</sup> 、1日2回を5日間服用
イナビル	4359円・1307円	1キット2179.5円	1回2キット分を服用
ゾフルーザ (12歳以上、30 <sup>kg</sup> 以上)	9755円・2926円	1錠20 <sup>mg</sup> 、1日2錠38.6円	1回4錠を服用

※ゾフルーザの薬価で12歳以上、60<sup>kg</sup>未満は1回2錠、12歳未満の小児は体重で別途規定あり